

## 釦

表面や側面にオリジナル刻印が可能で、社名や部署名などを入れた夏用制服に最適です。また、天然の貝を使用した高級釦等も選べます。贅沢な厚みを持たせ存在感を引立たせることも可能です。



イメージ

## 衿

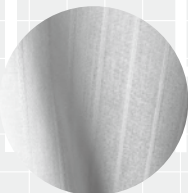
織田信長の陣羽織からインスパイアされた上品な衿は、ノーネクタイを前提としてデザインされ、着やすくそして立体的なコダワリのパターン等は、ビジネスからドレスまで様々なシチュエーションで迷う事の無いデイリーシャツとなっています。

また、台衿釦を開める必要は無く上品さとオリジナリティを兼ね備えています。衿下の菊穴には、社章バッジ等が取り付け可能です。



## 和紙糸〜岐阜物語

織田信長の楽市楽座により、現在の岐阜市の礎が築かれました。新たに開発された和紙糸をアレンジした素材は、本美濃紙が長良川を下り、岐阜市の竹細工と融合し提灯や和傘が出来たような岐阜市のルーツをたどる物語を連想させます。



## 布帛シャツ生地〜technology

ビジネススクールビスに最適な軽く肌触りが良いシャツ生地の開発を目指しました。綿糸に対して軽量で吸水即乾性に富む和紙糸を綿糸に、接触冷感作用のある異形断面ポリエステルを経糸に使用する事で、シャリ感と機能を合わせ持ちます。また、生地組織はサテン状のストライプを採用し織密度を最適化する事により通気性が良く上品な風合いのシャツ生地を制作しました。さらにスポーツ素材等のテクニクを用いて高温多湿環境に最適な素材作りのチャレンジとなりました。

試作品は、妥協する事無くハイエンドを目指していますが、量産やコストに応じて混率や密度も調整可能です。

## 抗菌防臭

繊維にキトサンを分子レベルで結合させる技術を用いて抗菌防臭機能加工を行い、結合されたキトサンは、生地から離脱することが困難になり、優れた定着性(耐久性)を発揮します。

キトサンは、電気的な力で菌を吸引吸着し、菌の行動を抑制します。このため、動けなくなった菌は繁殖が抑えられます。肌への刺激が少ない抗菌作用(抗菌素材)といえます。

## 七分袖

「七分袖」を採用する事で、快適かつ半袖よりも上品な印象となり、ビジネスシーンでもデイリーに着用出来ます。

## 縫製

袖付けの仕様は、ジャケットの縫製技術を使用する為、通常のシャツ工場では生産出来ません。「Made in Gifu」の特徴でもある器用さで、独自の縫製にて「シャツとジャケットの融合」を試み、シャツの中にジャケットの雰囲気を感じ出すフォルムを再現しました。また、それぞれの素材に合わせたきめ細やかな設定条件や配慮も岐阜で培われた縫製技術が役立っています。

## 岐阜シャツの主な特徴

1  
コンセプトは「涼しい」  
クールビス対応

3  
素材は「和紙混」

2  
一目で「岐阜シャツ」とわかる  
独特な開襟・スタンドカラー、  
七分袖など

## 「岐阜シャツ」商品開発の効果

1  
地場産業の復活

2  
地域資源の活用

3  
「繊維のまち岐阜」の  
知名度を全国に発信

4  
産業の発展が地域の  
活性化に繋がる

5  
消費者の世代が  
広がる



「岐阜シャツ」サンプル贈呈式

# Gifu

岐阜シャツ  
shirt project

特集  
ビジネスインフラビジュアル  
ヒットの兆し  
Made in Gifu

# 「岐阜ブランド商品」開発プロジェクト始動！

地場産業の振興発展、なかでも「地域産業のブランド化」は、日本中の地方都市において喫緊の課題です。

当所では、かねてより岐阜ブランドの振興に取り組み、地域経済の活性化に繋げるべくさまざまな活動を進めています。

なかでも地域資源の活用の推進、特に岐阜市の主要な地場産業である繊維産業の「ブランド力向上」は岐阜の活性化に必須なものであるとの考えのもと支援事業を模索し続けていました。

そのなかで昨年4月より、その特性を活かした「新たな商品開発」が可能かどうかといった勉強会を、デザイナーを含む6社の方々と重ねてまいりました。

そしてこの度、ファーストサンプル「岐阜シャツ」の発表に至りました。

Gifu  
shirt project

## Member

### 素材開発

川島政樹氏  
(カワボウ繊維株式会社代表取締役社長)

### コンセプトデザイン

井上真典氏  
(フリークイン株式会社代表取締役社長)

### 抗菌防臭加工

武藤昭成氏  
(柏屋商事株式会社専務取締役)

### 附属・カッソン・縫製

吉岡源一郎氏  
(吉岡株式会社専務取締役)

### 布帛縫製

園部泰敏氏  
(三敬株式会社代表取締役社長)

### コーディネーター

小林隆臣氏  
(SOCIO PRODUCT SPRIMER代表)

3/23  
発表！「岐阜シャツ」サンプル  
贈呈式  
村瀬会頭へ贈呈



## 村瀬会頭コメント

この「岐阜シャツ」は、クールビズに対応した岐阜市の地域資源である繊維業界の技術とデザイン力が結実されたオリジナルの開発であり、こうして手にできたことは大変意義深いものと感じております。

今年は、地方創生元年と言われておりますが、かねてより、地場産業である繊維業界の将来を担う若手経営者の方々が中心となって、繊維産業の復活に向けてプロジェクトを取り組んでこられたと聞いております。

地場産業である繊維産業を再構築して、『繊維のまち岐阜』のブランド化を図ることこそが、地方創生への第一歩であると考えております。

今年の夏は、ノーネクタイでも公式なワイシャツとして、広く認識していただけるよう、全国に発信して「繊維のまち岐阜」の知名度向上につなげていければと思います。

今後、『岐阜シャツ』が岐阜の繊維産業のブランドアップに貢献し、地方創生の起爆剤として岐阜経済の振興発展に資するものとを期待しております。





## 岐阜アパレルの技術力を 最大限に結集した「もの づくり」に挑戦します

岐阜商工会議所より「岐阜を象徴するような、岐阜の繊維業界に元気をもたらすような商品開発が出来ないものか」との声掛けを受けました。岐阜の繊維業界はご承知のとおり、以前の元気が感じられなくなっています。地場産業として何か「おもしろいもの」を作ることが出来ればと思います、参加しました。

岐阜の繊維業界はいわゆる「川上から川下」まで分業され、上から下に流れるような構成になっています。今回このプロジェクトに参加したメンバーは、お互いが売り手買い手となることはあっても一緒に「組んで」何かをつくるということはありませんでした。

今回は、各々の垣根を取り外して一緒に何かおもしろいものを目指していこうという「開発の可能性」を模索する勉強会となり、魅力を感じています。

勉強会としては始めるにあたり「岐阜を代表するようなものを作りたい」「沖縄のかりゆしウェアのようなものが作れないか」といった方向性が話の主軸となり、「岐阜のトップビジネスマンたちがフォーマルウェアとして着ても決して恥ずかしくないようなクオリティ・デザイン」をコンセプトにスタートしました。

生地には「和紙」を使う。これは勉強会の発足当初からのキーワードでした。通常、普及しているワイシャツは綿、もしくは綿とポリエステルで作られています。今回開発を進めている「和紙」を主成分とした生地は、とても軽量でさわやかなものに仕上がっています。このプロジェクトにより、岐阜アパレルの技術力を最大限に結集した「ものづくり」に挑戦でき、大変いい機会をいただいたと思っています。



## 岐阜から世界へ発信する、 トップクオリティの シャツづくりを目指します

ひとつは、これが商品になっていくときのお客様目線、この商品はお客様に着てもらえるのかどうかということです。

もうひとつはコンセプト。「かりゆし、」と言えば沖縄では正装。じゃあ岐阜だったら？」といった、何かキーワードになるようなシャツを作ることはできないか。その方策として挙がったなかのひとつが「デザイン」でした。一目見て「これ、岐阜シャツだね」とわかるようなシャツが作りきたい。そのなかでキーワードとして出てきたのが「織田信長」です。ちょうど来年、織田信長が岐阜城に入場して450年です。その流れにも繋げられるのではないかと、となりました。では、織田信長のファッションといえば？。真つ先



## 岐阜の縫製に、 縫えないものはありません

岐阜のアパレル縫製の灯を消さない。その想いを「岐阜シャツ」に込めています。

岐阜の縫製、アパレル技術はすばらしいということをこのシャツで表現させたいです。岐阜の縫製職人は昔からとても器用です。何でも縫えるといっても過言ではありません。そういった特性が、逆に「岐阜もん」と呼ばれ低く見られていました。

そんな悔しかった思いもあり、この岐阜シャツには岐阜アパレルの技術を結集させ、Made in Gifuを見直させるきっかけになればと思います。これからも、岐阜の縫製に「縫えないものはない」を信念に、どんな変化球でも受けてどんなデザインでも作って見せます。

## 岐阜で開発された 高温多湿向けシャツ 「岐阜シャツ」

7/23  
「岐阜ブランド商品」  
開発プロジェクト  
記者会見



## 岐阜の夏のビジネスシーン を快適にします

「岐阜シャツ」は、クールビズ対応のワイシャツです。しかもアンダーウェアを着ず、直接着ることも可能なものを私たちは目指しています。そのためには、多くの方が汗やにおいには十分気を遣うと考え、その機能として当社で行っている抗菌防臭加工の技術を施すべく、試験を重ねています。



## 岐阜アパレルの歴史と文化、 そして「今」の技術を 発信します

今回の「岐阜シャツ」は、文化的、歴史的にも、岐阜にしかできない商品だと自信があります。岐阜の繊維産業は、高度に分業化しています。しかもこの地域に集約されているのが大きな特徴です。だからこそこのような商品に向かっていきます。完成した際には、国内外に広く発信していきたいです。

に思い浮かぶのが、「陣羽織」です。その特徴はしっかり立った襟の部分にあります。これが一目見て「岐阜シャツ」だとわかるデザインコンセプトのキーワードになりました。私たちは岐阜シャツのファーストデザイン、本丸として作っているシャツを「ノブシャツ」と呼んでいます。最終的には岐阜から発信して世界に出ていけるような、トップクオリティのシャツづくりをみんなで目指していきたいです。海外の展示会に向けて美濃和紙などを使って、このプロジェクトでやっていこうと思っています。

このようなことから、私はデザインコンセプトとして、一目で「岐阜シャツ」とわかるようなイメージづくり。最終お客様に着ていただけるような商品となるには何をすればいいのか、ということに特にこだわりました。

環境省では、夏季の服装としてノーネクタイやノージャケットなどで快適に過ごせるクールビズを提案し、官公庁はもとより一般企業にも導入を勧めております。私どもでも、夏季に開催する会議では必ず「クール

ビズ等軽装にてお越しく下さい」とご案内をいたしますが、未だにネクタイ着用の有無についてお迷いのお電話を頂戴いたします。

そこで、蒸し暑い岐阜でも快適に着られ、ノーネクタイでも安心して公式の場に出席出来るシャツを岐阜繊維産業に携わる方々と開発すれば、必ず地場産業のブランド力向上に繋がるものと思ひ、お呼びかけをいたしましたところ、「岐阜シャップロジェクト」として結実し、このお披露目に至りました。

生地開発から縫製作業まですべての工程が岐阜で行われており、地元企業5社の叡智の結集された、まさしくオール岐阜による「Made in Gifu」であります。今後、国内はもとより、海外にも発信して、「繊維のまち岐阜」のブランド化を図っていきます。

岐阜シャツは「岐阜の正装」  
岐阜アパレルの新しい姿への  
可能性が大いに秘められている  
製品です



岐阜商工会議所事務局長  
河尻 満

多くの方に完成をたのしみにして  
いただけるシャツになるよう  
進めていきます

デザインのいちばんの特徴は何と  
いっても「襟元」です。普通のシャ  
ツでネクタイを外しただけのクール  
ビズ対応では、どうしても人相悪く  
映ってしまいがちです。

その原因は襟元にあります。「岐  
阜シャツ」は第一ボタンの位置が自  
然な開襟になる絶妙な高さです。こ  
れがおしゃれ感を醸し出しています。  
襟の後ろは「陣羽織」の発想が施さ  
れています。



スタンドカラーに襟先がある、タ  
キシードを着る時のウイングカラー

のイメージのシャツです。襟をつけ  
たのはフォーマル感を出すためです。  
そうすることでビジネスシーンに  
対応しています。



また襟元には「菊穴」があり、社  
章などのバッジをつけることが可能  
です。袖丈は基本的七分丈。半袖  
では公式な会議には不都合な場合も  
あります。長袖ですと正直、暑苦し  
い。そんな思いをされた方も多いの  
ではないでしょうか。そこで近年、

ベーシックになりつつある七分丈に  
してみました。

また、袖の作りにはジャケットの  
ような丸味を持たせています。脇も  
ワイシャツではなくジャケットのよ  
うに縫製されていて、一度着ればわ  
かる楽な着心地です。このあたりは  
シャツとして他に例をみない、すば  
らしい縫製力です。



SOCIO PRODUCT SPRIMER  
デザイナー 小林隆臣 氏



ヨーロッパに負けないデザインと  
東南アジアを視野に入れた  
ジャパंकオリティ。



岐阜で開発されたこのシャツは、  
日本は勿論ですが高温多湿な東南ア  
ジア圏から中東や南米まで幅広い地  
域での気候に対応出来る可能性があ  
ります。

そして、イタリア等のヨーロッパ  
ンデザインに劣らないジャパंकオ  
リティを目指し、広い視野を持ちな  
がら積極的に挑戦して行きたいと考  
えています。

Gifu 岐阜シャツ  
shirt project

詳細などお問合せ先  
「Gifu shirt project」事務局  
岐阜商工会議所  
Tel.058-264-2131